

2023年2月末日

2022年度バリ島水源涵養林再生植林ご報告書

いつもお世話になりありがとうございます。

インドネシア共和国 バリ州の火山爆発被災地の緑の再生と水源環境林造成植林に 2008 年以來、継続的に深いご理解とご支援を頂き、心より感謝申し上げます。現地では植林した木々が順調に育っていて、林から森に育ちつつあります。2022 年度の植林を 2022 年 12 月 11 日から実施いたしました。以後、地元の植林協力グループの皆さんにより、2023 年 1 月 2 月までで、合計 8000 本の植林を実施することができましたので、以下ご報告させていただきます。

この森づくりは

インドネシア・バリ州で 2006 年事前調査をし、2007 年より植林を始めました。過去のバツール山の火山爆発で被災し、多くの住民が、生活の場を失い、この地を追われて以来、159 年間、だれも手を付けることができませんでした。そのために、隣接する「バツール湖」の水位が 2 メートル余り低下してしまいました。この湖を源流として、下流域の人々の生活用水としての機能が危ぶまれ、州政府が植林を始めていましたが、植林環境として厳しいため、植えても育たない状況が続いていたため、当協会に協力の要請があり取り組みを始め、現在に至っています。

下) 植林前の現場 バツール山麓 火山爆発被災地



この状況の中で、地元の人たちの水源を涵養する目的で植林を始めて 15 年、

植えた木々育って、豊かな森に変貌しつつあります。

世代や地域を超えて、地球環境を保全し住みよい地球を作り続けるために植林し、市民の生活基盤や、あらゆる生命の保護と繁栄に貢献します。そして、植えられた木々は、そこに住まう人々に多くの幸運を自然循環サイクルの中で無限に与え続けてくれます。この植林は地元の人々だけでなく、「平和の礎」を持続的に守り続ける活動になっています。

※わずか15年で、大きく変化した植林地



火山爆発被災地は皆様のご支援でここまで回復することができました。

2007年から2022年まで15年間の間、多くの企業、団体、個人の皆様にご支援を頂き、**延べ161,184本の植林を達成**することができました。

皆様の尊い、ご協力により、被災地は順次森が回復しております。

上の写真は2008年に御社の植林を始めた被災地の眺望です。

植林後14年目の状況です。

現地の人たちも、もう「森」と呼べる状況だと評してくれています。同時に人が少しだけ手を入れることで、自然の回復力のすばらしさが発揮されることを深く感じさせられています。

❖2022年12月11日 植林祭を開催し植林を開始

コロナ禍の中であること、植林現場が被災地でも火口に近い場所で、アクセスに時間がかかることにより、植林祭はコンパクトして、2021年12月11日に実施いたしました。

※右写真は、苗木を両手にもつ少年と足元は植林後に水を補給するための水と苗が準備されています。

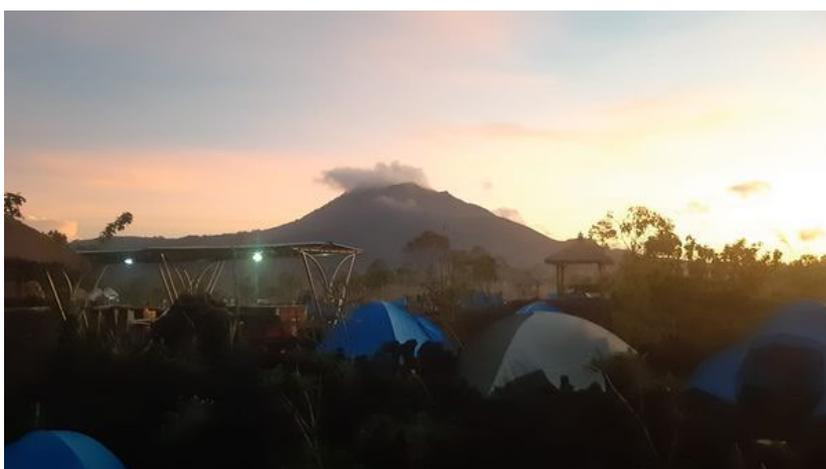


苗は生分解性プラスチックの鉢を日本から送り使用していますので、植え付けるときに鉢のまま植えるので

↑子供たちも参加し植林の継承に努めています

根を空気に触れさせることなく植えることで、活着率の大幅な向上に大きく貢献しています。また、植林現場にプラゴミを現場に残さないのもとても環境にやさしい植林となっています。

今年の植林祭は現場がバツール山の火口に近い場所のため、現場入りに時間がかかるために、参加者の多くは、前日からキャンプをして対応しました。





植林祭のイベント案内と右は、植林祭参加の皆さんに植林作業の手順を案内するための案内図です。

事前に植林する穴を掘り、堆肥と土を投入して準備をしてあります。

苗木は、生分解性の素材の鉢に植えて、約 40 cm に育てています。植林後、竹の支柱を立て、縛ります。

給水する為のポリ袋入りの水を植林した苗に補給します。竹の支柱とこのポリ袋も事前に準備しています。



植林作業開始情景

参加者は事前に

グループ分けして

所定の場所で植林

を

子供や様々な職業の

一般の人々や高校生に

も参加してもらっています。





再生面積とは、火山爆発により被災し、火山灰、火山礫に覆われた土地に植林をすることで、様々な植生が生まれて、多様性豊かな土地に回復している状態を指しています。現地の土地の地形状況により、植林できる本数は限定されますが、平均的な単位面積当たりの本数を 600 本/畝と仮定して推定しています。

1849 年に最初の火山爆発があり、この地域に住んでいた住民や生活していた土地が広い範囲で失われ、その後も 1968 年まで 7 回の火山爆発が起こりました。この間、自然の植生が失われ、隣接するバツール湖の水位が 2m 以上も低下しました。水不足により危機的な状況に陥り、何とか植生を戻したいとの地元政府の要望を受けて、爆発から 159 年後の 2007 年から取り組んでいます。この地域の自然植生の回復と生活用水を供給する命の水ガメであります湖の水位が回復してきて地元の人々にも感謝されるプロジェクトとなっております。



※一部のグループの集合写真です。↑

コロナの感染症により、集団行動が制限されているために、この3年間は人を集めることがとても困難になりました。

今年は、過去2年間より、容易になりましたが、全体で約200人しか集めることができなかったために12月11日に植林できたのは、4000本にとどまりました。その後は、植林現場に近い部落の植林チームだけで、継続して植林をしています。2月20日現在、植林完了しているのは8000本完了しています。

最後に、世界平和の森づくりについて

私たち人間が、自然の恵みは無秩序に利用してきた結果、感染症の拡大など自然からの反作用が人類の生活を脅かす形になっています。

私たちは、これまで地球の自然資源が無限であるような錯覚をして、日々の経済活動や消費生活をして、資源の浪費をしてきました。

“自然資源は、無限ではなく有限なのです。”地球は無量大ではありません。
地球の自然が持続的に循環していて、いつも豊かでなければ、わたしたち人間は生きてはいけないことは、明白です。

地球生命の維持のために「植林」は持続的な活動を維持し続けることが不可欠な活動です。

次世代に「生命」繋いでゆくことにこそ、この世に生をうけた意義と意味があります。私たちは自然に生かされていることに感謝し、その感謝の証として「**地球の大地に木を植え、次世代に引き継ぐ**」活動に参加することが「平和な希望ある地球創り」につながります。

植林開始後は、隣接するバツール湖の水位も回復してきており、安定した環境になっており、現地の住民のみなさまに感謝されております。

でも、これまで再生できた面積は、まだ 10 分の 1 です。

これからも多くの皆様のチカラが必要です。

次世代に安定した自然環境を引き継ぐために！

私たちの人間世界では、明日の読めない時代ですが、植えた木々は、人間社会の状況に左右されず、自然力で力強く育ってくれます。

以上、ご報告まで



※自然には育たない溶岩だらけの環境には人が植える活動が不可欠です。

◎ 参考

植林が大切なわけ～あなたの生活の未来の繁栄～

植林はCO₂吸収源としての機能のみがクローズアップされていますが、数々の以下のような私たちの生活基盤を守ってくれています。

- ① 酸素の生成 ② 土壌の浄化 ③ 騒音公害制御 ④ 雨水の流出制御
- ⑤ CO₂を貯蔵 ⑥ 大気の浄化 ⑦ 気象の緩和 ⑧ 気温を制御 ⑨ 防風機能
- ⑩ 土壌浸食防止 ⑪ 鳥獣の保護 ⑫ 風致保全と安らぎの提供 ⑬ 不動産の財産価値を高める。など様々な生活基盤を維持し、循環しています。

SDGsの観点からは、

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

～植林したエリア内で農業を始めている住民が出てきています。～



2 気候変動とその影響に立ち向かうための緊急対策をとる。

緊急の対応策として木を植える行動を始める

15 陸上生態系の保護、回復及び持続可能な利用の推進、森の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性の損失の阻止を図る。

「先人の教えより」

★21 世紀に生きる君たちへ：司馬遼太郎氏の書籍より抜粋

「昔も今もまた未来においても変わらないことがある。

そこに空気と水、それと土などという自然があって、人間や他の動植物、さらに微生物にいたるまでが依存しつつ生きているということである。

自然こそ不変の価値である。

なぜならば、人間は空気を吸うことなく生きることができないし、水分を取ることが無ければ、乾いて死んでしまう。

人間は生かされてきた。古代でも中世でも自然こそが神々であるとした。

自然をおそれその力をあがめ、自分たちの上にあるものとして身をつつしんできた。」

※この言葉を次世代に伝え続けてゆくためにも植林活動の実践が必要です。

※今世界でパラダイムシフトが起こっています。

この事実を「知って、生活スタイルを変える行動を始めましょう」

私たちは「**世界史に残る大激変時代**」を正在している
不可避な「**パラダイムの崩壊**」が起こっています

「**石油で食料を作るパラダイム**」の崩壊～地下資源で食料生産は持続性がない

「**工業製品が高く売れるパラダイム**」の崩壊～工業製品買いたたかれ資源食糧高騰

「**石油兌換紙幣としてのドルのパラダイム**」の崩壊～ドル石油本位制の崩壊へ

「**地球は無限に大きい**」というパラダイムの崩壊

社会システム、経済システムのすべてを見直す時代